



地域経済の振興とまちづくりに全力 がんばります 原田 完です

日本共産党 京都府委員会 <https://www.jcp-kyoto.jp>

府会議員として最後の代表質問

二月八日、府会議員として最後の代表質問を行いました。質問は中小企業の経営支援とゼロゼロ融資、ポストコロナなどです。

京都経済を支える中小企業支援について

長引くコロナ禍、物価、原材料高騰、過剰債務という三重苦が中小企業の経営と暮らしにのしかかり、コロナ関連の廃業が全国では毎月二〇〇件、二〇二〇年からの累計では四八〇九件となっています。

ゼロゼロ融資が全国では四二兆円、京都で四万七千件一兆円の融資が行われコロナ禍で多くの中小企業の経営と雇用を守ってきました。地元金融機関の観測によると返済期

に入り三割を超える中小企業が過剰債務となって返済困難な状況になると言われています。

私は、より安心できる仕組みとして、ゼロゼロ融資の債務を別債務の枠にして過剰債務であった企業の資金需要応援、景気回復時の資金需要にこたえる仕組みの制度構築を行い、保証料支援を国に求めるとともに、国が動かなくても京都府独自で支援制度の検討が求められると提案しました。



2/7 定例宣伝

日本共産党中京演説会
山添拓参議院議員来る！

2月23日(木・祝)
午後2時～3時
ラポール京都ホール
(駅前通り西条西入)

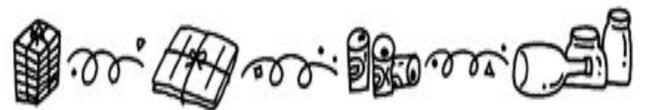
憲法が希望
戦争する国づくりストップ

山添拓参議院議員
山添拓参議院議員
山添拓参議院議員
山添拓参議院議員

山添拓参議院議員
山添拓参議院議員
山添拓参議院議員
山添拓参議院議員

山添拓参議院議員
山添拓参議院議員
山添拓参議院議員
山添拓参議院議員

私も弁士で登場します。
是非、ご参加下さい



「食」と「農」の危機について

農業問題では国民の命の源となる「食」と、それを生み出す「農」が未曾有の危機に直面しています。食料品価格が軒並み高騰して国民生活を圧迫すると同時に、生産資材の急騰により農業経営の破綻が続出しています。世界は昨年来、長引くコロナ禍にロシアのウクライナ侵略が加わり、「戦後最悪の食料危機」に見舞われています。異常気象による生産の不安定化、新興国での需要の爆発的増大も相まって、一過性の危機ではないと見通されます。

中国は、世界第2の経済力を背景に食料輸入を飛躍的に増大させており、日本が買い負ける事態も生まれていっています。「食料は金さえ出せばいつでも手に入る」時代ではなくなっています。

国連が決めたSDGsの実現に一つ一つの施策の紹介は省かせていただきますが、農業支援、集落営農への支援、家族経営支援、新規参入者支援、肥料、農業、畑作安定対策など多様性を支える農業振興には生産費に見合った価格保障の各種支援システム。持続可能な農業支援を具体的に検討いただくことが必要と提案しました。



子どもの医療費助成制度のさらなる拡充を

おすすめ記事

日刊紙 (1月30日付)
朝の風
生き続ける不屈の山宣
東京山宣会が編んだブックレット『唯生唯戦(ゆいしょうゆいせん)―山宣に学ぶ時代の生き方』には時代を見据えて生きる人たちの姿が満載だ。

唯生唯戦は山本宣治の造語で、ひたすら生きひたすらたたかう、戦争に向かう世をまっすぐに生き戦争を阻止するために挑む、というように意味だそう。反戦を貫き、治安維持法に反対した山本宣治は1929年に39歳の若さで、右翼によって刺殺された。

本書は豊富な資料を駆使し、山宣の、人間への限らない信頼に根ざした不屈のたたかい、科学へのあくなき追究心、産児制限の分野

での業績、人となりの魅力などを明らかにしている。

山本宣治年譜は2022年まで記されていて、山宣がいまになお生き続けている証となっている。

山宣が歴史に刻んだ先駆的な意味を掘り起こして発展させるために、自分の目で確かめ自ら行動して時代を築いていこうとする東京山宣会の人たちの気概と誠実さがどのページにもあふれている。特に、南京の学校で授業を試みた「山宣を学ぶ中国の高校生」という永島梓さんの一文に胸をうたれた。

ミサイルの飛び交う時代にひるむことなく真向かう人たちの生き方が、山宣の不屈の火を継ぐ意思を伝える貴重な一冊である。(莉)